

明石工業高等専門学校図書館

図書館報

第51号 平成28年1月

目次

巻頭言	(1)
図書館と私	(3)
自著紹介	(4)
私と読書	(5)
購入希望図書案内	(7)
購入希望申込方法	(8)
読書感想文コンクール	(9)
ブックハンティング	(14)
推薦図書	(15)
利用統計	(16)
利用案内	(17)
海外の図書館	(18)

「梟の城」 司馬遼太郎著

笠井 秀明

「昭和10年（1935年）に始まった直木賞の直木三十五は、本名が植村宗一であり、「植」を「直」と「木」に分けて「直木」と呼んでいたと、記憶している。遊び心の現れか。彼は大阪の市岡中学（現、市岡高校）出身で、私の先輩である。私は昭和45年（1970年）に同校を卒業し、大阪大学に進んだが、当時は学生運動が終焉するころで、市岡も一時学校封鎖となったり、阪大でも授業のボイコットがあったりと、怠け者にはふいに良き時代であったように思う。それから奇しくも43年である。

大阪における高等教育機関を代表する大阪大学は、帝国大学として昭和6年（1931年）に創立され、大阪の幾つかの伝統を継承している。その中に、天保9年（1838年）開設の適塾と、享保9年（1724年）大阪町人5人が発起人となり創立された懐徳堂がある。適塾は、医学をはじめ自然科学全体を西洋から輸入するに当たって大きな役割を演じた。一方、懐徳堂を中心として展開された思想は、人間社会の道徳と自然現象を分離するという自然科学の第一歩を踏み出すことと、適塾の存在を可能にした開明的な環境を整えた点で、日本における自然科学の出発点を作ったと評価されている。町人の都という当時の大阪の特異性が、自由闊達な精神を形成することに寄与したと考えられている。

大阪帝国大学は、まずは、医学部と理学部の2学部で出発した。官立大阪工業大学は、大学として発足直後であったこともあり、また、その設置目的が学術の蘊奥を極める帝国大学に合わないという反対があったために、学内意見統一に時間を費やし、2年遅れて昭和8年（1933年）に工学部として加わり、今年で80年となる。大阪大学は、戦後になり、文科系諸学部を含む7学部を増設し、さらに、平成19年（2007年）には大阪外国語大学と統合し、総合大学に発展している。昭和35年（1960年）に司馬遼太郎は「梟の城」で直木賞を受賞しているが、彼もまた大阪外国語大学（現、大阪大学）の卒業生である。・・・」（巻頭言「古き良き時代の追憶と新しい時代への熱い視線」より、応物同窓会だよりー笠井秀明著）

上記は、応用物理学科50周年記念として執筆の依頼が来た際に、我が母校に想いを馳

せて書いたものです。図書館報に載せるにあたり、司馬遼太郎「梟の城」を取り上げたく、引用致しました。

「梟の城」は、これまでに2回映画化されているようです。最初の映画化は昭和38年（1963年）で、私の記憶の引き出しからは出てこないようですが、子供の頃がそれを見聞きした時分です。娯楽といえば、そのころは、映画が主流でした。

高等教育機関では「グローバル化」、「イノベーション創出」など改革の波が押し寄せていますが、少し立ち止まって、古き良き書籍などを読み、時代を振り返るのも良いのではないのでしょうか。人生の先輩に学び、日本の歴史に残る文学に親しむ時間は、皆さんの豊かな生き方を後押ししてくれることでしょうか。

本推薦書は、皆さんの研究、実験等には無関係の忍者ものです。歴史小説の感もあり、別世界を垣間みることができます。しかし、もちろん私の推薦する図書にとらわれる必要はありません。皆さんの興味ある一冊を見つけてみてください。その入り口として、本推薦書も念頭に選んでみてはいかがでしょうか。

（かさい ひであき 校長）



『梟の城』 司馬遼太郎著

新潮文庫 1965年5月

ISBN：978-4-10-115201-1

請求記号：913.6.S 登録番号：105810

図書館と私

坂戸 省三

私の小学校時代、古い木造の校舎が少しずつ鉄筋コンクリートの校舎へと建て替えられていきました。小学3年生の頃だったか、新しく建てられた校舎の2階に広く明るい図書室ができました。中に入ると、新しい未知の世界がそこから広がっているような、とても新鮮な気持ちでしたのを覚えています。友達といって図鑑を見たり、小学生向けのイラストのたくさん載った自然科学の本を読んだりしていました。

時は移って大学や大学院の頃ですが、建築をやっていたわけです。当時、建築家である有名教授はやたら哲学的なことを言っていました。哲学的な人間学と言えるかもしれません。事実、建築の背後にはまさに「人間」がいます。私自身、人間とはどういうものか、心のはたらきはどのようなもので、なぜそうなのか、を考えずにはおられません。それで哲学、心理学、精神医学等々広く読みましたが、私の考えの一番核になったのはローレンツの動物行動学や京大で盛んな霊長類学（サル学）でした。後者二つは当時まさに現在進行形で日本に紹介されたり、進展していたりしました。最新のそれらの分野の本が他の何にもましておもしろかった。私の性質は哲学的、文系的ではなく、自然科学者のであったのだと思います。もっとも精神分析のエリクソン（ライフサイクルとかアイデンティティといった考え方を言い出した人）も私にとって非常に重要ですが。

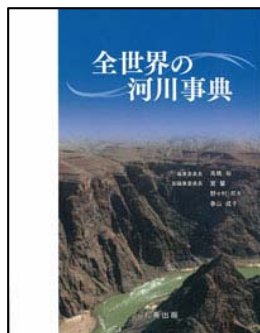
そのころ京大時計台の地下に本屋があって、そこには私を含めて京大の学生や院生、教員たちが読みたがる最新の本が並べられていました。そういうわけで当時図書館の本より、大学のあたりの本屋で買った本を主に読んでいました。ただ時間の空いた日に自分の下宿にいとついついだらだらと時間を過ごしてしまうので、図書館へ行って本を読んだり、勉強したりすることもありました。図書館にいる限り本を読むか、勉強するしかないからです。例えば医学部の近くの下宿にいた頃は医学部の図書館へ行きました。誰も知った人間に出会うこともないので落ち着いて本が読めます。京大の本部の図書館は大きいのですが、残念ながら、大味でおおざっぱな空間です。あまり落ち着いて本が読めるころとは思えませんでした。しかしいろいろな本があるので、次々と手に取りながら時間が過ごせます。

大学院の研究室では実際の建築の設計を先生の指導のもとで院生もやっていました。私が参加したのは、とある県立精神病院のデイケアセンターでした。調査研究、基本設計、実施設計、現場監理と進みます。精神医学についても少し勉強しました。その後私は「箱庭療法」を研究することになるのですが、そこには創作する行為、空間的作品、空間の心理分析などといった建築と重なることがたくさんあるからです。京大の教育学部臨床心理学教室にはユング派分析家として有名な河合隼雄先生がいました。そこへ行って箱庭の研究を開始しました。そうした次第で教育学部の図書館にはしばしば本を借りに行きました。また文学部や、理学部の図書館にも行きました。総合大学のいいところです。

私はいろいろな分野のことがらに興味をもつ人間です。そしてそのようなところから自然と新しい総合的な視野が開けてくると思っています。一般教養がもつ重要性です。この学校は総合大学とは対極的ですが、図書館には様々な分野の本があります。時々ぶらぶら行って、いろいろな本を手にとってみましょう。

自 著 紹 介

神田 佳一



『全世界の河川事典』

高橋裕，寶馨，野々村邦夫，春山成子 他 256 名共著

丸善出版 2013 年 7 月

ISBN978-4-621-08578-3

請求記号：517.2.T 登録番号：103975

近年、温暖化に伴う地球環境の変化、洪水や水不足による災害の増大、都市化・工業化による生態系の破壊や水質の悪化など、河川や湖沼を取り巻く環境は大きく変化している。本書は、これらの課題について河川とその流域の視点からとらえ、20 世紀以降の河川の歴史を確認するために、総勢 260 名の国内外の専門家によって著された事典である。世界中の約 4,000 もの河川・湖沼、放水路・運河・疏水・用水を個別に取り上げ、それぞれの河川の基礎情報（長さ、流域面積、流路など）の他、洪水・水害、河川史、流域の特徴や歴史、行事までを多くの写真や図表とともに収録している。筆者は兵庫県の加古川水系、揖保川水系及び市川水系の諸河川を担当し、これまでの河川研究者としての経験から安全で快適な都市空間を創造する中で、河川やその流域を取り巻く歴史や自然環境と如何に共生していくべきかについて、それぞれの河川に対する想いを記述している。本書が河川と関わっている多くの技術者や学生にとって有益な情報源となることを願っている。

(かんだ けいいち 都市システム工学科)

自 著 紹 介

檀 和秀



『防災工学』

澁田、疋田、檀、吉村、塩野 共著

コロナ社 2014 年 3 月

ISBN978-4-05520-7

請求記号：519.9.K 登録番号：105065

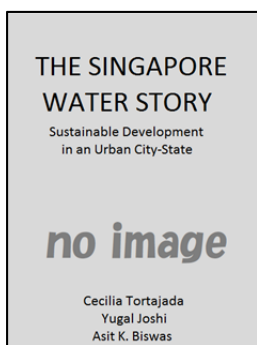
本書は第 1 章から 7 章までを、自然災害と防災概説、地震災害、河川・土石流災害、海岸災害、地盤災害、火山災害、災害対策と防災計画の内容となっている。

檀は 4 章の海岸災害を担当執筆している。日本の海岸線は高潮、津波、高波（波浪）、侵食、地球温暖化による海面上昇などのように非常に厳しい自然条件にさらされている。後世にきれいな海を遺すためには、海は世界中の国々につながっていることを考えつつ、海岸に関する環境保全、防災技術について学習する必要がある。その参考書として本書を利用してほしい。

(だん かずひで 都市システム工学科)

私 と 読 書

高見 徹



『THE SINGAPORE WATER STORY

Sustainable Development in an Urban City-State』

Cecilia Tortajada, Yugal Joshi, and Asit K. Biswas 著

Routledge 2013年4月

ISBN978-0-415-65783-9

請求記号：292.3.C 登録番号：Y11843

明石高専ではグローバル教育を推進しています。私からは私の専門である上下水道の普及と進化に関する海外事例を理解するのに最適な本書を紹介します。ここには、シンガポール共和国のマレーシア連邦からの分離独立以前（1950年代）から現在に至るまでのシンガポール島における水源の開発、上下水道の整備、ならびに水環境の修復と保全に関する政策と技術開発の歴史が記録されています。シンガポールはいままでこそ美しく整備された「ガーデン・シティ」であり、衛生学的にも高度に管理された国際都市ですが、独立当初は下水道が整備されておらず、1980年代後期まで自宅に設置したバケツに「nightsoil」を溜め込んで回収するシステムが残っていました。現在は僅か700km²余りの国土に500万人以上の人々が暮らすため、持続的な経済発展のための安定した水源の確保が課題となっています。シンガポールの観光資源でもある「NEWater」の水処理工場や「Marina Barrage」は、シンガポール政府が推進した水源開発事業における工学的な成果の事例です。

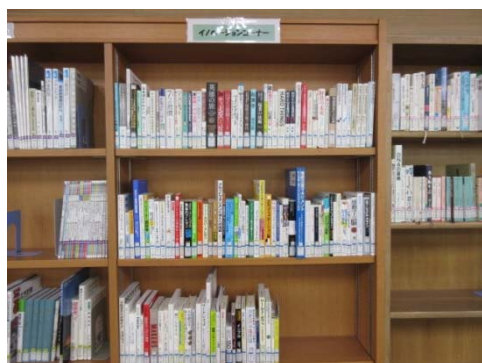
明石高専ではポリテクニクとの交流において、多くの学生がシンガポールを訪れたり、ポリテクニクの学生が明石高専に滞在したりしています。上述のような話題についてポリテクニクの学生と意見交換してみるのはいかがでしょうか？それだけであなたはグローバル・エンジニアとしての第一歩を踏み出したと言えるでしょう。

（たかみ とおる 都市システム工学科）

BOOK * BOOK * * BOOK *

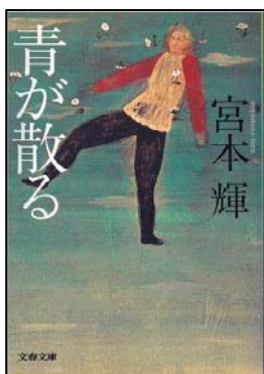
イノベーションコーナー

知識共創社会の今、欲しい未来を作る **Creative Thinking** には、デザイン思考、未来思考、ストーリー思考、ダイアログ（対話）、利他の精神等が求められます。平成28年1月に、イノベーションコーナーを新しく設置しました。イノベーションの教科書とも言われている



『START INNOVATION ! with this visual toolkit. [スタート・イノベーション!] —ビジネスイノベーションをはじめ、様々なジャンルの本を設置しています。今後はイノベーションコーナーの本の著者に聞く『行動する読書会』の開催や本からの知識や気づきをシェアする『(仮)知識の森プロジェクト』も予定しています。読むだけの読書から、イノベーション・行動する読書へ、Shift The Future !

私と読書



岡田 大輔

『青が散る』
宮本 輝 著
文藝春秋 1985年11月
ISBN 978-4167348021
請求記号：913.6.M 登録番号：Z96346

もう20年ほど前、高校生だった私は、閉塞感の中いらだちながら毎日を過ごしていました。受験で2校とも不合格となるとは考えてもおらず、全く入るつもりのない安易に選んだ滑り止めの男子校に通っていました。

特にやりたいことのない高校生にとって、男子校というのはただ苦痛です。退学してゆく友人をうらやましいと思いつつ、勇気のなかった私は退学することもできませんでした。

こうなると、読書をしたぐらいでは何も解決しないのですが、携帯電話は当時なく、通学の電車で本を毎日読みました。

印象に残っているものとして、

- ・椎名誠『新橋烏森口青春篇』
- ・北杜夫『どくとるマンボウ青春記』
- ・宮本輝『青が散る』

などがあります。

特に『青が散る』は健全です。今の言葉だとリア充です。主人公の大学生はテニスに打ち込み、人間関係に悩み、ヒロインにふられます。

当時の私とは生きている世界が全く異なり、しかし「大学生になればこういう日々が待っている」と思うことも全くできませんでした。今から見ても、なぜ『青が散る』を当時の私は受け入れることができたのかよく分かりません。

ただ、小説の中の、「君は自分より強い者に勝った」という老教授の言葉だけが印象に残り、以降の私の人生を支えています。

(おかだ だいすけ 元文部科学省 AP)

購入希望図書案内

図書館に備えてほしい資料があれば、MyLibrary 経由でお申し込みください。資料の種類は、図書、視聴覚資料などジャンルは問いません。以下の選書基準と予算に応じて、ご要望にお応えしています。MyLibrary へは、図書館ホームページよりアクセス出来ます。学生証の ID とパスワードが必要になります。パスワードの初期登録は図書館カウンターまで。

図書館ホームページ（ <http://www.akashi.ac.jp/library/> ） の下記○部分



平成 26 年度は購入希望により、84 件の図書等を購入しました。

学生希望図書の選書について

平成 25 年度より、学生希望図書の選書基準を設けております。

【選書基準】

- ・ 勉強及び研究で利用する書籍を優先的に購入する。
- ・ 文学的な小説などは優先的に購入する。
- ・ 公俗に反するような書籍は購入しない。
- ・ 学生にとって好ましくない内容の書籍、学校の図書館に設置するには相応しくないと判断される書籍は購入しない。

上記の基準以外で判断しにくい書籍に関しては、外部の図書館の状況や外部識者の意見をもとに図書館長が判断する。

【選書例】

- ・ 漫画△ ライトノベル× バンドスコア× イメージイラスト集×

購入希望申込方法

1. Mylibrary を開き、ID・パスワードを入力し、「ログイン」を押します。

English | ヘルプ | 閉じる

ようこそMyLibraryへ！

MyLibraryとは、インターネットを通じてアクセスできる資料・資源・検索ツールなどをあなただけの書斎や勉強部屋のように整理しておく、Web上の図書館です。

お使いいただける方
IDをお持ちの方に限ります。

MyLibraryでできること

- ・貸出や予約状況の確認
- ・現在の研究・学習分野に関連のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成

ログイン

明石工業高等専門学校

2. 初めて利用する場合は、左下にある「利用者サービス」の「メールアドレス登録・変更・削除」を選択し、連絡を受け付けるメールアドレスを登録して下さい。

利用者サービス

- 貸出・予約状況照会
- 文献複写・貸借申込み
- 文献複写・貸借申込み状況照会
- 学生希望図書リクエスト
- 学生希望図書リクエスト状況照会
- パスワード変更
- メールアドレス登録・変更・削除

メールアドレス登録・変更・削除

E-Mail登録・変更・削除ヘルプ

1 メールアドレスを登録、または変更してください。
メールアドレス:登録されていません。

メールアドレスの設定 :

メールアドレスの再入力 :

変更を確定する キャンセル

3. 「利用者サービス」の「学生希望図書リクエスト」を選択します。

ISBN・タイトル・著者名・出版社・出版年・価格・希望理由を入力し、「申込」を押して下さい。

1 連絡方法を指定してください。

E-mail u1691@s.akashi.ac.jp

1 申込内容を入力してください。(※は必須項目です)

ISBN : 978-4163903408 半角で入力してください。

タイトル* : スクラップ・アンド・ビルド

シリーズ :

版表示 :

著者名 : 羽田 圭介

出版社* : 文藝春秋

出版年 : 2015 半角で入力してください。

価格 : 1296 円 半角で入力してください。

書店等のカタログNo.:

希望理由 : 2015年の芥川賞受賞作品であるこの書籍を是非読んでみたいため

申込 クリア キャンセル

4. 確認画面が出るので、「申込を確定する」を押し、「閉じる」を押して下さい。

申込内容

ISBN : 978-4163903408

タイトル : スクラップ・アンド・ビルド

シリーズ :

版表示 :

著者名 : 羽田 圭介

出版社 : 文藝春秋

出版年 : 2015

価格 : 1296円

書店等のカタログNo.:

希望理由 : 2015年の芥川賞受賞作品であるこの書籍を是非読んでみたいため

申込を確定する やり直し キャンセル

学生希望図書リクエスト 受付完了

申込を受付しました。

受付番号:IR.00004242

申込受付完了ヘルプ

申込状況照会へ 流用申込 連続申込 閉じる

平成27年度『読書感想文コンクール』表彰式



校長先生を囲んで記念撮影

平成27年12月18日、校長室において平成27年度読書感想文コンクール表彰式が行われました。今回の読書感想文コンクールでは下記の4名が入賞し、笠井校長より賞状並びに副賞が授与されました。

最優秀賞	機械・電子システム工学専攻	1年	三浦	文也
優秀賞	機械工学科	5年	谷	皓仁
優秀賞	機械工学科	1年	井阪	優希
特別賞	建築学科	3年	岡本	陸

平成27年度『読書感想文コンクール』入賞作品

「作品解釈の変遷」

最優秀賞 機械・電子システム工学専攻1年 三浦 文也

フランツ・カフカの「変身」という作品は『ある朝、グレーゴル・ザムザがなにか気がかりな夢から目をさますと、自分が寝床の中で一匹の巨大な虫に変っているのを発見した。』という非常に奇怪な書き出しで始まる。小学生の頃に初めて読んで以来何回か読み返してきたが、その度に受ける印象が変化しているように感じる。

小学生の頃はただ、虫になってしまった悲しい男の話であると思っていた。自分が虫になったら怖いなどといった程度にしか感じられなかった。

しかし中学生になって少し印象が変化した。著者はユダヤ人であり、時代は戦前であったため周囲から迫害され続けてきたうえに、父親と不仲であったことを知った。そのため、醜い虫になってしまった主人公に対する周囲の嫌悪や恐怖感が著者に対するものと重ねられているのだと思った。実際著者自身が主人公と自身とのつながりを否定することも肯定することもしていないのである。著者の執筆時の感情がぶつけられているのだと感じたし、主人公に感情移入してしまって、彼の孤独感や悲壮感を想像すると読むことすらも辛くなることもあった。

そして現在、再び読み返してみるとまた新たな感覚を感じるようになった。それは、この作品内における鮮明すぎる描写と、それにも関わらずこの作品の真の意図読めないという不思議な感覚である。

虫に変身した主人公を見た、彼の仕事場の上司が恐怖心から後ずさりをした場面がある。その時の様子を『目に見えぬ、均等に働く力に追まわられて行くような格好である』と、まるでその場で見えていたかのように仔細に表現している。また、作品内の至る所で人々の一挙一動や感情の変化などを異常なまでに事細かに解説している。この作品は九〇ページ程度である。内容としてはその半分ほどで収まってしまうほどだが、残り半分を状況の解説に用いるという尋常ではないほどの文章量で事細かに状況を説明している。

これほどの情報量にも関わらず、主人公が虫になってしまった原因が一切不明なのである。また、著者はこの作品に登場する虫の挿絵を描かれることを、頑なに拒否したという。それは主人公が著者自身であることの暗示なのか、それともあえて描かせないことで不気味さを増幅させることが目的であったのか、といった様々な解釈ができる。

鮮明すぎる描写の裏に、意図が読めない著者の感情を感じ、読むたびに魅力が増していく面白い作品であると感じた。また、同じ作品を読んでも年月を重ねるごとに自分の中での解釈が変化していくことも面白いと思った。



(『変身』／フランツ・カフカ著 新潮文庫 1952年)

『自己犠牲』の示し方

優秀賞 機械工学科5年 谷 皓仁

私が小学校高学年の際に母に紹介された時から定期的読みたくなってしまう本がある。それが『塩狩峠』である。母から紹介された時には、実話を基にして作られたものであるとしか聞いていなかった。しかし初めて読んだときに持った感想が、主人公である信夫が私と同じ人間なのだ、と思ったことは覚えている。また、彼が暴走した列車を止めるために自ら列車の前に飛び出した場面では、私が同じ局面に立たされた場合と同じようなことができるかどうか、とも考えたことも覚えている。またそこで、本作品が宮沢賢治著の『グスコーブドリの伝記』に似ていると感じていた。しかし、今回は視点を変えて読んでみた。



本作の冒頭部分に、聖書の一節がある。読むたびに思うのだが、彼はその『小麦の一粒』であったのだということを筆者の三浦綾子氏は強調したかったであろうことがよく伝わる。この聖句が本作を読む際のキーワードであると思う。単に一つの命で大勢の命を救ったというだけではない。作中でも彼の行為に感銘を覚えた人が大勢カトリック信者になったことが挙げられており、彼は自身という『一粒』を犠牲に『百倍』の実を生み出したことが示されている。また、本作では直接的な表現はされていないが、信夫が成人してからクリスチャンとなったところから、彼の行動原理の根底として『聖書』乃至『キリストに見習う』というものが入ってきており、端的にまとめるならば『自己犠牲の精神』が彼の行動原理となっている。

さて、本作の終局部分について整理すると、信夫は婚約者のところへ結納を持っていく最中に事故に遭遇したことがわかる。どんな人にも言えることだが、人がなくなれば必然的にその死を悼む人が出てくる。そういった点を考えると、彼が行った行為は単に『自分を犠牲にする』自己犠牲ではなく、彼に深くかかわっていた人物たちに自己犠牲を強いる行為であった、とも考えることができる。作中にも、その死を悼む大勢の人の描写がある。そもそも彼は勤勉で人望が厚かった人としても描かれている。この『一粒』は周囲の人々にとってはかなり大きな一粒であったことだろう。

本作の終局部分にのみ注目していると、信夫がさも聖人君子であるかのように描かれてしまうが、それは私の本意ではない。ここで、彼の幼少期を振り返ってみるといったって普通の子供であることがわかる。死んだと伝えられていた母親が実は生きていた時にショックを受けたことや、礼拝にほかの家族が全員出かけたがために家族を取られてしまったと嫉妬しているところなどからそう感じた。つまり、私たちと同じような人間なのである。

最近のニュースを見るならば、自身の通行の妨げとなったからとベビーカー上の乳児を殴った老人の事件など、利己的であると取れる事件が増加している。近年では人と人との間隔が希薄となってきている傾向にあると考えられているが、そういう時代であるからこそ、彼のような状況には遭遇しないではあろうが、彼のような精神に倣って『自己犠牲』を示していくことができるよう心掛け行きたいと思う。

『塩狩峠』／三浦 綾子著 新潮社 1968年

「air - だれも知らない5日間 - を読んで」

優秀賞 機械工学科1年 井阪 優希

この本を小学六年生で初めて読んだとき、最初に覚えたのは共感、そして羨ましさだった。

主人公の園村絵亜（エア）は名門女子中学に通う十四歳。親の言う学校を受験し、親の望む成績のために勉強する毎日。冷たい学校、クラスメイト、家族。全てが嫌になったエアは『家出』を計画する。

小中学校のときの私も、ずっと家出がしたかった。家族とは仲も良かったし、少ないながら友達もいた。でも、私は周りの環境に、なんとなく考えの合わないクラスメイトだったり、大嫌いな集団行動だったりに息苦しさを感じていて、だからエアにとっても共感した。エアと一緒に家出の算段をたてていた。

さて、家出をもくろみ、カバンに荷物をつめたエア。目を閉じて想像してみる。眠りの深い父とワインを飲んだ母にばれないよう、家を出る。そこまではいつも順調だ。しかし突然、『想像の家出』は終わってしまう。家を出ても行くところがないのだ。

私も、エアにならって目を閉じた。玄関の鍵はガチャガチャとうるさいから、自室のベランダへ出る。柵を乗り越えて屋根から屋根へ。塀に乗り移って門から地面へ。家を出るのは簡単だ。でも、それから…？当時は携帯電話も持っておらず、電車にすらほとんど乗ったことがなかった私は、途方に暮れる。エアと同じ。

しかし、エアには出会いという転機があった。『プチ』家出中の同級生サワ。彼女の寝泊りしているマンションの一室は、家出をしている少年少女たちの『シェルター』だという。誰でも好きにいて良い、というその場所で、エアはやっと息ができた。そして彼女は、両親が不在の夏休み、五日間だけの『家出』を決行する。

エアと、当時の私の違いは何だっただろう。家出を決行できた彼女と、出来なかった私の違い。

それはきっと、シェルターの存在。私はそう思っていた。彼女の幸運が羨ましくて仕方がなかった。その後、インターネットでシェルターは実在しないのか調べたほどだった。結局小説というものは都合よくできているのだと悲観すらしていた。

しかし、十六歳になった今。私はエアの幸運を、彼女自身の力だと考えるようになっていた。中学時代出会った言葉の一つに『人は助けてもらうんじゃない。自分で勝手に助かるんだ。』というものがある。きっと彼女は自分で出会いを引き寄せたのだと、この言葉を思い出して考えた。

そう思えるようになったのは今の自分の居場所が、自分の力で手に入れたと思えるからかもしれない。自分の成長を実感できたようでなんとなく嬉しかった。

「air - だれも知らない5日間 -」は、小中高専合わせておよそ五年間で、最も共感できた本のうちの一冊であり、また今回も含め、最も自分の成長を実感できる本でもある。何度となく読み返し、破れてこそいないものの、カバーもボロボロになった。この本と、私は一緒に成長してきたのだとふと思った。そしてこれからも、一緒に成長できる本だと思う。小学生から高専生へ、大切な言葉に出会って、少し読み方が変わったように、大人になれば、非行少年しか登場しないこの本をどう読むのか。また家庭を持てば、親になれば。それぞれに違った読み方で、違った感想を持つだろう。そんな、ずっと新しい刺激に出会える本というのは、とても貴重だと思うし、そんな本に出会えた私自身の幸運にも、感謝したい。そして、ずっとこの本と、成長していきたい。

(『air - だれも知らない5日間 -』／名木田 恵子著 講談社 2011年)



「生きること。」

特別賞 建築学科3年 岡本 陸

ふと本屋に立ち寄り本を眺めていると、とある本の表紙にあった“究極の愛”という言葉に惹かれ私はこの本を手にとった。まだ若い私には本当の愛を実感する機会が無く漠然としたイメージしかなかった。この本は私に本当の愛とは何たるかを教えてくれるのではないかと思い読むことにした。

この物語は主人公の祖父のお葬式の日、祖父、賢一郎から血のつながりが無いことを知らされ、本当の祖父、宮部久蔵の生涯をたどる話である。久蔵の祖父は第二次世界大戦中ゼロ戦の天才パイロットであった。しかし最愛の妻、松乃との「生きて帰る。」という約束を守るために自分の命を非常に大切に、周囲からは臆病者と言われていた。そんな中久蔵はパイロットの教官を務めるようになり、目の前で特攻の為に死にゆく人を見て自分だけが必死に生きている罪悪感から自ら特攻に志願する。そして特攻の日、宮部は自分の特攻の為に用意された零戦の不調を見抜き、教え子の零戦と交換した。教え子の零戦は不調により離陸出来ず特攻行きを免れた。宮部は教え子を守るためにあえて戦闘機の交換をしたのだ。その教え子は宮部の意志をくみ取り、自分にできることは松乃を守ることだと思い堅実に世話をした。松乃ははじめは戸惑いながらも宮部が最後に言い残した言葉「たとえ死んでも僕は戻ってくる。生まれ変わっても必ず君の元に戻ってくる。」という言葉の思い出し、宮部と教え子の姿を重ね、次第に心を開き結婚した。その教え子というのが賢一郎だった。



(c) 百田尚樹/太田出版

さて、この本で主張している究極の愛とは一体何か。生きていること。ただそれだけが究極の愛なのであろう。愛してくれている人が最も強く願う事、それが愛した人に生きてもらうことなのである。現代は平和な世の中になり命の尊さや儚さを感じる機会には実に少ない為、生きることの難しさを知る機会が少なくなっている。それ故、生きることが究極の愛だと言っても素直に納得してくれる人は少ないだろう。しかしこの本では戦争中の命が軽視されている世の中と、久蔵の“死んでもなお”生き続けようとする姿の対比により、いかに生きることが大切で愛を示すものであるかを教えてくれる。私は初めて本を読んで泣いた。究極の愛を知り感動すると共に、死への恐怖を覚え泣いた。別に死ぬこと自体が怖いわけでは無かった。ただ私が今愛し、愛されている家族、恋人、友。私が死ぬことでそれらに愛を示すことが出来なくなり、多大な苦しみを与えることに、愛するものを失い、愛を感じられなくなり多大な苦しみを味わうことに恐怖を覚えたのだ。十八年間生きてきて初めての感情だった。本を読み終えてしばらく時間が経ってもなおこの本の内容は頭から離れることはなかった。更にこの読書感想文の紹介を受けたときにはこの本を読んで半年以上経っているにも関わらず真っ先にこの本について書くことを決めた。それほど私の心に強く印象に残っており私の人生を大きく左右する作品であった。

私はこの本を読み、シンプルだが非常に大切なことを学んだ。たった一冊の本であったが読み終わったところには以前とは全く違った自分になれた気がした。これからは愛してくれる人々の為に必死に生き、愛する人が生きていることに幸せを感じ、愛する人が生き続けてくれるように支えていけるような人間になろう。

(『永遠の0』／百田 尚樹著 太田出版 2006年)

ブックハンティング

ブックハンティングとは書店に直接出向いて、学生の皆さんの視点で本を選び購入するというイベントです。購入した書籍は学校の図書館に開架します。いつもは図書館で希望図書を注文する機会しかありませんが、ブックハンティングでは実際手にとって他と比べながら本を選ぶことができます。

実施日時：平成27年12月19日（土）13：00～17：00
実施場所：神戸三宮ジュンク堂書店
参加人数：学生8名（+図書館長・事務職員）

12月19日（土）、三宮のジュンク堂書店にて3度目のブックハンティングを実施しました。参加学生は8名で、70冊ほどの書籍を店頭選書しました。コンピュータやプログラミング関係、機械関係の書籍はもちろんのこと、建築関係や、イノベーション関係に至るまで幅広い書籍を選びました。書籍が図書館に納入されましたら、その本を選んだ学生に簡単なコメント入りの本紹介のポップを作成してもらい、選ばれた本と共に図書館ブックハンティングコーナーに開架する予定ですので、一度手に取ってご覧いただければと思います。



ブックハンティングに参加した留学生と購入した書籍



平成27年度学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

誌名	請求記号	登録番号
機械工学科推薦		
機械加工シリーズ 改訂版 金属切削の基本	532.0.K	105811
バリ取り・エッジ仕上げ大全	532.0.K	105736
加工の力学入門—塑性変形・破壊・機械加工 (理工学講座)	501.33.U	105731
工程順でわかるはじめてのプレス絞り加工	566.5.K	105733
トコトやさしい 3D プリンタの本 (今日からモノ知りシリーズ)	501.8.S	105739
「日経ものづくり」	雑誌	
電気情報工学科推薦		
伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール	021.4.T	105727
伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール	021.4.T	105728
「OHM」	雑誌	
「トランジスタ技術」	雑誌	
「日経Linux」	雑誌	
「エレキ工房」	雑誌	
都市システム工学科推薦		
コンクリート技士 徹底図解テキスト	511.7.K	105695
基礎からの衝撃工学—構造物の衝撃設計の基礎—	501.34.I	105690
詳論 沿岸海洋学	452.0.N	105694
図説 わかる土木計画	513.1.N	105693
地盤環境工学	511.3.K	105685
ハンス・アルバート・アインシュタイン(彼の生涯と私たちの思い出)	369.3.E	105687
建築学科推薦		
最新 耐震構造解析 第3版	524.91.S	105699
「住宅」という考え方—20世紀的住宅の系譜	520.9.M	105715
建築・交通・まちづくりをつなぐ 共生のユニバーサルデザイン	518.8.M	105698
人間の街: 公共空間のデザイン	518.8.Y	105697
ほしい暮らしは自分でつくる ぼくらのリノベーションまちづくり	518.8.S	105705
村野藤吾の建築 模型が語る豊饒な世界	520.8.M	105716
一般科目推薦		
College Algebra (10th Edition)	837.7.O	Y11830
今日から菌トレ!	598.0.M	105704
狂気の科学	402.0.R	105679
ニュースになった毒	491.59.A	105681
「数学セミナー」	雑誌	
「CNN English Express」	雑誌	

全73冊、雑誌9種

利用ランキング 2014.10.1 - 2015.9.30

—図書—

- ① 78回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5」
- ② 50回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4」
- ③ 45回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.6」
- ④ 33回 「システム英単語」
- ⑤ 25回 「ベクトル・行列・行列式徹底演習」
- ⑤ 25回 「新 TOEIC TEST 文法・語彙問題秒速解答法」
- ⑦ 23回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.3」
- ⑧ 22回 「明解演習シリーズ 微分積分」
- ⑧ 20回 「大学編入試験対策 編入数学過去問特訓」
- ⑩ 20回 「土質試験の方法と解説 第一回改訂版」
- ⑩ 20回 「土質試験 基本と手引き 第二回改訂版」

—雑誌—

- ①229回 「新建築」
- ②119回 「新建築,住宅特集」
- ③ 60回 「A+U」
- ④ 42回 「住宅建築」
- ⑤ 31回 「ディテール」
- ⑥ 24回 「Tennis classic break」
- ⑦ 23回 「建築知識」
- ⑧ 11回 「TOEIC Test プラス・マガジン」
- ⑧ 11回 「建築画報」
- ⑧ 11回 「文藝春秋」

—DVD—

- ① 7回 「プリズン・ブレイク I(3)」
- ② 6回 「ターミネーター4」
- ② 6回 「ミッション・インポッシブル ゴースト・プロトコル」

図書館利用状況 (平成22年度から平成26年度)

項目 / 年度			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
年 間	入館者数	時間内	38,734	31,755	29,810	35,988	21,478
		時間外	7,132	6,714	9,874	10,194	7,614
		計	45,866	38,469	39,684	46,182	29,092
	AV ルーム	計	2,358	1,896	1,677	1,067	255
	貸出者数	計	4,103	3,649	4,072	3,667	3,354
	貸出冊数	計	7,666	7,014	7,271	6,987	6,499
	開館日数	年 間	292	290	288	291	290
一日平均	入館者数(時間内)		162	110	104	124	74
	入館者数(時間外)		30	23	41	43	36
	A V ルーム		8	7	6	8 (126日)	1
	貸出者数		14	13	14	13	12
	貸出冊数		26	24	25	24	22

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30

※平成25年8月28日より、AVルームが撤去され、演習室4 (BIM・CALL)に変わりました。

※別途、新規にAVコーナー (6席) を設けております。

図書館利用案内

開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/26 - 1/4	

試験期間前・期間中の日曜（祝日）は土曜日と同じく開館しています。

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。対象者(学科4年生以上、専攻科生)

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など
各コーナーに別置しています。

図書館内配置図

- ① 雑誌バックナンバー、建築コーナー
- ② JISハンドブック、参考図書(専門科目)
- ③ 専門雑誌
- ④ 大谷文庫、近藤文庫
- ⑤ 視聴覚資料
- ⑥ 学科推薦図書、イノベーションコーナー
- ⑦ ブックハンティングコーナー
教員がすすめる100冊コーナー
- ⑧ 留学生コーナー

- ⑨ 人権図書、旅行本コーナー
- ⑩ 講談社現代新書、SD選書
- ⑪ 中公新書、知的文庫、
ブルーボックス、岩波ジュニア新書
- ⑫ 推薦文庫(古典新訳)、文庫本
- ⑬ TOEIC、多読、キャリア支援コーナー
- ⑭ 新着本コーナー
- ⑮ 一般雑誌
- ⑯ マンガ本コーナー
- ⑰ 岩波新書、岩波文庫、同時代ライブラリー

開架室に配架されている
図書は分類番号順、
南から000~999



海外の図書館

アメリカの大学の図書館

藤原 誠之

昨年、アメリカへ6ヶ月間滞在し、その際に二つの図書館を見る機会がありました。本稿ではその図書館を簡単に紹介したいと思います。

写真1は私が滞在したニューヨーク市立大学クィーンズカレッジの図書館の外観です。ニューヨーク市立大学には11校のカレッジがあり、それらは5つのキャンパスに分散しています。クィーンズカレッジは元々人文系が有名な大学で、近年では芸術系、生物科学系や社会科学系のアクティビティが高い大学です。従って、工学系の蔵書が殆どないのが残念でしたが、学生に利用されている図書館の日常の雰囲気に触れることが出来ました。建物は5階建て、特に装飾されたものはなく、至って機能的な作りでした。最上階には会議室が設けられており、研究発表会やパーティーなどの各種イベントに使用されていました。図書館はもちろん調べ物をするのに使用されますが、学生達の多くはレポートの印刷やコピーをとるのに使用していました。また、学習スペースが豊富に用意されており、平常時は夜10時までの開館ですが、試験期間中は24時間開館され、多くの学生が試験勉強に利用していました。アメリカの大学生は予想以上によく勉強するのに驚かされました。



写真1 クィーンズカレッジの図書館

写真2はイエール大学の Beinecke Rare Book and Manuscript Library の外観です。イエール大学には多くの図書館が点在し、全部でどれだけの図書館があるのかわかりませんが、蔵書数は1270万冊で世界第3位とのこと。その中でも特に希少価値の高いものがこの図書館に保管されています。外観は窓がなく、シンプルな形をしています。内部は驚きです(写真3)。ガラスケースの中に貴重な本が整然と配列され、その中は温度、湿度が厳密に管理されていました。ここまで来ると読み物というより芸術であり、書物の重要性を再認識させられます。



写真2 イェール大学の図書館外観

アメリカの大学の二つの図書館を紹介しましたが、最近インターネット、特に電子ジャーナルの発達で、工学系分野では純粋に調べ物をするという目的で図書館を利用する機会が少なくなりました。しかし、図書館にはその学校特有の独特な雰囲気があり、それがその学校の一つの特色ともいえます。本校の図書館も勉学の雰囲気を醸し出す学習の場として更に発展していくことを願います。



写真3 イェール大学の図書館内部

(ふじわら せいじ 機械工学科)

【編集後記】

図書館報第51号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立てばと願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第51号 2016年1月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051